

授業評価・授業研究報告

保健体育講座・上田敏子

1. 授業の基本情報

保健体育科教育法 2 は、教科及び教科の指導用に関する科目であり、保健体育科教育法のうち、保健科教育について学習する授業である。授業は単独で行っており、登録学生は教育学部中等教育（保健体育）および小学校サブコースの学生計 8 名であった。

2. 授業評価・授業研究の内容

授業最終日にアンケートへの回答を依頼した。回答数は 5 名であった。アンケート調査項目は、以下の 5 つとした。

Q1 知識・理解

教育と教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。

Q2 技能

教育活動に取り組むための十分な技能を身につけている。

Q3 思考・判断・表現

教育現場で生じているさまざまな現代的諸課題について、専門的な知見をもとに、その対応方を理論に基づいて総合的に考え、その過程や結果を適切に表現することができる。

Q4 興味・関心・意欲、態度

教師としての使命感や責任感を持ち、自己の課題を明確にして理論と実践とを結びつけた主体的な学習ができ、自主的に社会に貢献しようとする。

その結果、Q1～Q4 について「とてもそう思う」および「ある程度そう思う」という肯定的な回答のみであった。これらの結果より、本授業は教育学部の DP に対応した内容が実践できていることが明らかとなった。そのうち、Q3 の「思考・判断・表現」の内容では、全員が「とてもそう思う」と回答していた。今年度の授業は、少人数であったため、例年と比べ、学生相互の活動や授業内での発言を多く取り入れていた。また、ICT の活用としてこれまで取り上げてこなかったロイロノートを活用したことで、学生の主体的な活動が増え、評価が高

かったと考えられる。

また、今年度は例年と比べ、模擬授業に向けて計画する時間を多くとった。グループごとに指導案を作成し、50 分間の授業を立案するという体験を通して「思考・判断・表現」の評価が高かったと考えられる。模擬授業に向け、試行錯誤する時間が十分あったことから、授業に集中して取り組んでいた様子がみられた。来年度以降も、学生自身が主体的に学べるよう授業計画を立てていきたいと考える。

一方、「知識・理解」については、「とてもそう思う」は 6 割であり、「ある程度そう思う」が 4 割であった。今年度の授業は、15 回の授業のうち、2 回を非同期型授業とした。1 月中旬、私自身が新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者になったため、授業を遠隔非同期型授業に変更したため、当初予定をしていたまとめの試験が実施できなかった。そのため、学生に身に付けておくべき知識・理解の習得が十分できなかった可能性がある。今後は、中間テストを設けるなど、授業の途中で「知識・理解」の修得を図る機会を設けるなど、対策を行っていきたい。

3. まとめ

本授業では、中学校および高等学校の保健科教育について教科書（中学校・高等学校保健科教育法 改訂版，2021）を中心に授業を進めた。授業では中学・高校の保健の目標・内容の理解をはじめ、様々な指導方法について、演習を通して学ぶ活動を多く取り入れた。こうした学生主体の活動を今後も取り入れ、学生自身が教材を開発し、実践していけるようにしていきたい。また、実際の授業実践を視聴することや、新しい保健教育の取組についても、随時取り上げ、より魅力的な授業を展開していきたい。